

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 1 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Six- and twelve-month outcomes among homeless youth accessing therapy and case management services through an urban drop-in center. 都市部でのドロップインセンター(ストリートチルドレンなどの収容施設)における若年ホームレスの accessing therapy とケースマネジメントによる 6 か月、12 ヶ月後の成果	
執筆者 Slesnick N, Kang MJ, Bonomi AE, Prestopnik JL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Health Serv Res. 2008 Feb;43(1 Pt 1):211-29.	
キーワード ホームレス、ドロップインセンター、政策	
要 旨 目的： 精神健康、居住、教育、雇用、医療ケアなどをホームレスの若者に提供するドロップインセンターにおける個別治療やケースマネジメントについて評価をすることを目的としている	
方法： 都市部、southwestern drop-in center におけるサービスを受けた 14 歳から 24 歳までの若者を対象とした。また準構造化した自己レポート質問票を用いて 2002 年 10 月から 2005 年 4 月までの間に若者を対象に、ベースライン、6 か月、12 か月後に調査を行った。階層的な直線回帰モデルを仮説の検定に用いた。	
結果： 薬物乱用、精神保健の改善を有意に認めた。アルコールおよび薬物使用の減少は在宅時間の増加と関連した。しかし多くの若者は恒久的な住宅を手に入れることはできなかった。また教育、雇用、医療サービスについても大きく調査期間に変わることはなかった。	
結論： drop-in center における若いホームレスに対する治療は若いホームレスに positive な影響を与えるためには、若いホームレスに改善をもたらす政策や基金やサービスの提供が必要である。	